

EV・PHEV用急速充電器



# FLASH

国内最大級の180kw  
従量課金制を実現





## 特徴① 日本国内最大の出力180kW

※一口当たりの最大出力

近年、電気自動車のバッテリー大容量化が目立っております。それに対応すべくFLASHは国内最大級の出力180kWを実現いたしました。これにより電気自動車オーナーの待ち時間を大幅に短縮します。

## 特徴② 従量課金制を実現

これまでのEV充電器は分課金モデルで、充電した時間に対しての料金が発生していました。FLASHはkWあたりの従量課金モデルを採用したことにより、設置者の方が利益をあげることも可能になりました。

## 特徴③ クレジット・QRコードで決済

FLASHは事前の登録など、一切不要でクレジットカードもしくはQRコードで決済が可能です。これで充電器利用のための充電カードを作る必要がなくなり、従来のガソリンスタンドのような感覚でご利用できます。

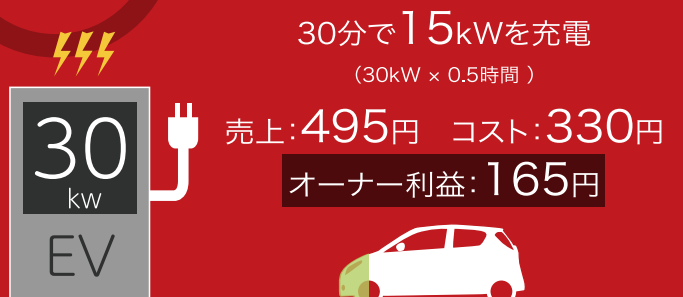
## 仕様

充電方法	CHAdeMO
入力	3相4線式 AC420V(50Hz) / AC440V(60Hz)
定格出力	180kW (出力制限 : 112.5kW)
出力電流	0~250A DC
寸法	97.2×60×190cm
重量	400kg
効率	90%以上
防水・防塵	IP54
使用環境・温度	-10~60℃
使用環境・湿度	30~90%
認証	CHAdeMO認証
補助金対象	対象
課金	クレジットカード、QRコード

# 従量課金モデルについて

これまでのEV充電器は分課金制が主流となっており、ユーザーが充電した電力量に関係なく料金が決まります。30分で10kWを充電できたとしても、50kWを充電できたとしても、充電料金は変わりませんでした。それに対してFLASHは従量課金モデルを採用し、ガソリンスタンドのように、充電した電力量に応じて料金が決まります。これにより、ユーザーの不公平感を解消するとともに、設置者にとってもメリットが得られるものとなりました。

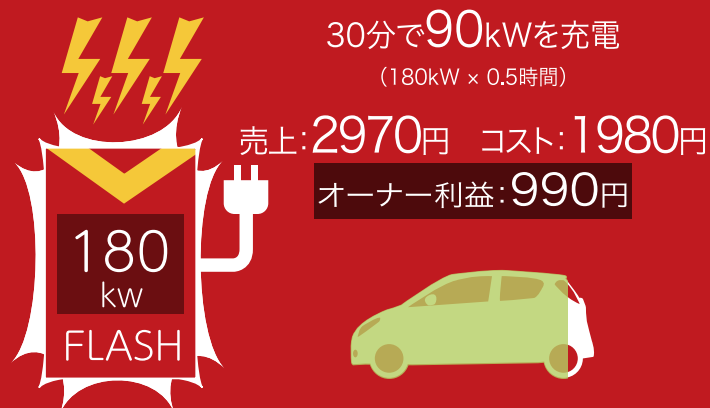
## 分課金制の場合



充電スピードが速い

= 出力が高くなる程オーナーは赤字になってしまう

## 従量課金制の場合



充電スピードが速い

= 出力に応じてオーナー利益が上がる

〈補足〉

図の例はどれもバッテリー容量 100kWh 最大入力 250kW 電力コスト22円/kWh  
充電料金は 分課金制の場合 分単価16.5円 従量課金制の場合 kW単価33円 で計算

# 充電時間比較

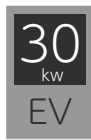
## トヨタbZ4X の場合

バッテリー容量:71.4kWh 最大入力:150kW



FLASHで充電  
20%→80%

約**17分**



30kW充電器の場合  
20%→80%

約**85分**



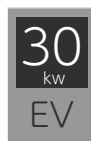
## 日産アリアB6 の場合

バッテリー容量:66kWh 最大入力:130kW



FLASHで充電  
20%→80%

約**18分**



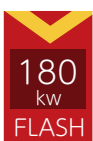
30kW充電器の場合  
20%→80%

約**80分**



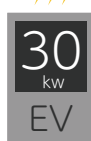
## テスラ モデルY の場合

バッテリー容量:75.3kWh 最大入力:250kW



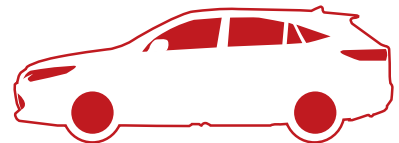
FLASHで充電  
20%→80%

約**15分**



30kW充電器の場合  
20%→80%

約**90分**



※カタログスペック上の数字です。実際の速度はバッテリー残量や環境により大きく変動します

「FLASH担当者」まで、お気軽にお問合わせください。

☎ **0120-705-800**

〈営業時間〉  
平日  
9時-18時

